

新春随想

わが人生最良の日々

金子明博 (東京都)

33年間勤務した国立がんセンター中央病院で初めての定年を平成15年に、2度目を5年間勤務した東邦大学大橋病院で昨年迎えました。現在は横浜市立大学と帝京大学で眼腫瘍の診療を無給で行っています。国立がんセンターでは28年間一人医長で診療してきた関係で、眼科の他の専門領域の進歩を治療に取り入れられなかった嫌いがありましたが、大学病院で診療すると容易に種々の専門外来の協力が得られるので、診療のレベルが向上しました。

生存のために2~3の診療所で一般眼科診療をしています。これまで殆どアルバイトをした事が無かったので、必ずしも楽にこなせませんが、とても新鮮で興味深く、地域医療の重要性と喜びを体験しています。日曜日も無く働いていますが、収入は以前よりはるかに増えるし、癒される新しいパートナーとの出会いもあり、幸せな毎日です。

多くの有能な研究協力者のおかげで開発出来た、網膜芽細胞腫の局所化学療法は20年以上を経過して海外でも認知されるようになり、現在では世界20カ国以上で施行されています。国際学会ではパイオニアとして賞賛の目を持って見られるので、多少とも人類の進歩に貢献できた事に誇りを感じます。私は変わり者で、出来の悪

い医学生でしたが、高い志を持って好きなことだけに邁進してきたおかげだと思っています。

医学部時代に始めたテニスは、時間とお金が無く、満たされない思い出ばかりが残っていますが、現在は都内で有数のスポーツクラブのテニス会員となり、良いコーチにも恵まれ、毎週プライベートレッスンを受け、それなりに上達しました。パートナーと楽しむ為にゴルフも練習していますが、ドライバーでのスライスがなかなか克服出来ません。

12年後にも再び、その後の経過を報告できるよう、健康に注意して前向きに生きるつもりです。



我々の開発した網膜芽細胞腫の選択的眼動脈注入を世界に普及してくれたニューヨークのAbramson教授の診療チームの先生方と招待されたハーバードクラブでの晩さん会の後で。(前列左より2人目が筆者)